

アートと社会貢献を連動させた作品貸出事業

art bridge[®]

もっと身近にインクルーシブアート



多様性を尊重し、支え合う社会を目指すプロジェクトー国内外で活躍の作家が新たに参加ー

当協会が2023年12月から取り組むアート作品の貸出事業「art bridgeーもっと身近にインクルーシブアートー」。この度、国内外で活躍する新たな作家10名の新作18点が加わり、総勢21名による40点以上の作品がラインナップされました。貸し出しの際の利用料の一部(25%)を作者に還元し、障がいのある方などの自立支援にもつなげていきます。

art bridge(アートブリッジ)は、現代美術として近年ますます評価が高まっている、障がいのある方々などの作品を広く社会に届けようという取り組みです。新たに加わった作家のなかには、アール・ブリュット[※]作品のコレクションで世界的に有名なabcd財団(art brut connaissance & diffusion)に作品が収蔵されている西岡弘治さんや、アウトサイダー・アート・フェア・パリ2019で「Art Absolutement Prize」を受賞した中川ももこさん

など、国際的に高い評価を得ている作家もいます。

当協会は、多くの人々にこうした作家たちの多様な感性に触れ、理解を深めてもらうことで、多様性を尊重し支え合う社会の実現を目指しています。

※アールブリュット(Art Brut)…フランス語で「生の芸術」を意味し、正規の美術教育を受けていない人や、障がいを持つ人などによる、従来の美術の枠にとらわれない自由な表現による芸術を指す。



作家紹介

にしおか こうじ
西岡 弘治さん



音楽があふれ出てくるような作品

まるで音楽が奏でられているような生き生きとした五線譜を描き出す西岡弘治さんは、2015年にブラハ(チェコ共和国)で開催されたabcd collection「アール・ブリュット展」の図録の表紙を飾るなど、世界的にも注目されています。日本国内でも、大阪府「現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト」の優秀賞など、数多くの賞を受賞しています。

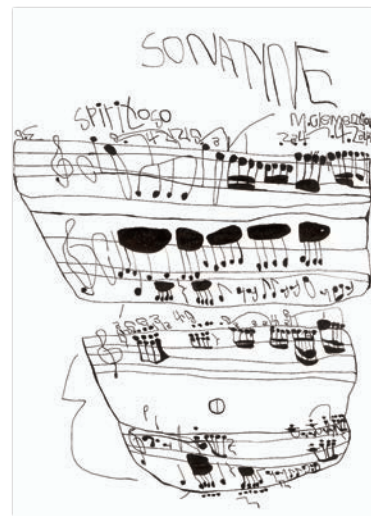
西岡さんは、知的障がい者の生活介護施設・アトリエコーナス(大阪市阿倍野区)がアート活動を始めた2005年から作品制作を続けています。最初はテレビの番組表や相撲の番付表を描いていましたが、幼少期にピアノを習っていた西岡さんは、施設に寄贈されたピアノと楽譜に触れたことをきっかけに、当時のことを思い出したように楽譜を描きはじめました。

音楽が好きで、休日にカラオケに行くことを楽しみにしている西岡さん。平日午前中はほぼ毎日施設で、柔らかな日差しが射す中庭の見える席に座り、クラシックやアニメソングの楽譜を作品の横に置き、一つ一つ確認しながら制作しています。お気に入りの楽譜集は毎日使う

のでボロボロになっていますが、補修して使い続けています。ゲルインクボールペンから生み出されるインク滲みのような線の強弱は、線を一度引いた後に意図的に書き足す“こだわり”により生み出されています。ほぼ1日1枚のペースで作品を仕上げており、これまでの作品は1千点を超えています。

揺らいだように流れる構図や、題名と五線譜の配置は、西岡さん独自のスタイル。この流れる作風は、西岡さんの右目の見え方によるもののようですが、この揺らぎが作品に音楽があふれ出てくるような躍動感を与えています。

今回貸出作品に加わった西岡さんの作品2点は、18世紀後半から19世紀前半に活躍した作曲家ムツィオ・クレメンティ(イタリア)とフリードリヒ・クーラウ(ドイツ～デンマーク)のソナチネ(短いソナタ)の楽譜をモチーフにしたものです。西岡さんの手によって、この二人の作曲家の楽譜がどのようなアート作品へとアレンジされたのか、ぜひご自身の目で確かめてください。



《楽譜 SONATINE》 制作年不明

西岡弘治：1970年大阪府出身。大阪府「現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト」優秀賞(2010年)など受賞多数。フランス abcd コレクションに作品が収蔵(2012年)。abcd collection「アール・ブリュット展」(2015年ブラハ)で作品が図録の表紙を飾る。NHK「no art, no life」出演(2021年)。

新たに加わった貸出作品（一例）

関西を拠点に活動し、すでに国内外の現代美術の世界で高い評価を得ている10名のアーティストがart bridgeに新たに参加しました。今後も引き続き、関西エリアで活動するアーティストを順次追加していく予定です。



おおし ひろし
大路 裕也 《男の人》2021年
緻密に塗り分けられた不定形なモチーフから、物事の輪郭の曖昧さに気づかせる作品。



おがわ しょうよう
小川 翔陽 《やね》2019年
観る方の心象風景に迫りながら、どこか懐かしさを感じさせる包容力のある作品。



かわの りょうじ
河野 竜司 《はなび》2013年
水溶性の顔料マーカーの特性が活かされた透明感と重層感を感じる作品。



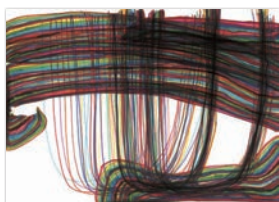
かわはら なおき
川原 直樹 《なおき》2023年
自身の名前(なおき)を繰り返し描き重ねることで現れた、色彩の美しさを感じる作品。



か っ
KATSU 《教会》2019年
主に単色で描かれながら、線の角度や密度、強弱により、奥行感や複雑な表情を見せる作品。



しらい たくろう
白井 拓郎 《リスカムとゴルナー氷河》2022年
風景写真をグリッド状に分解することで生み出された、色構成が特徴的な作品。



なかかわ ももこ
中川 ももこ 《ももこ》2017年
自身の名前「ももこ」が、それとは分からない程に抽象化されたストライプのような作品。



みず た こうすけ
水田 航介 《車両基地》2013年
好きなモチーフを描いた油性クレヨンの上で、水性絵具が弾ける動きを活かした作品。



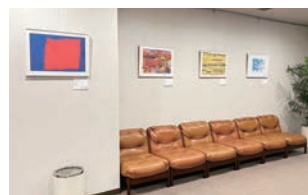
も も
MOMO 《無題》制作年不明
身近なモチーフをパステルできめ細かに描いた、優しい雰囲気伝わる作品。
(敬称略)

ご利用いただいている皆様からの声

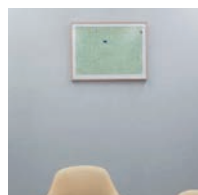
ご利用いただいている皆様からは、「実物はさらに存在感があり、とても気に入っています」「1点の絵画で、ワンランク洗練されたオフィス空間に変わり驚きました」「雰囲気が明るくなり、来社されるお客様との会話がはずむきっかけになります」などのお声をいただいています。

これまで、コンサートホール（ザ・シンフォニーホール様）、オフィス（阪急電鉄様、オーウェル様など）、ホテル（リーガブレイス肥後橋様）、特別養護老人ホーム（隆生福祉会ゆめパラティース様）、スタジアム（セレッソ大阪様）など、さまざまな施設で作品を設置していただいています。

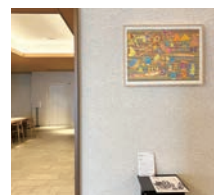
作品貸出のお申し込みは、下記のリンク、もしくはQRコードからオンラインで行えます。法人、団体等の皆様のご利用を、心よりお待ちしております。



株式会社ザ・シンフォニーホール様
(2Fサイドロビー)



阪急電鉄株式会社様
(オフィス 応接室)



リーガブレイス肥後橋様
(ホテルエントランス)

ご利用申し込み

公式ウェブサイト「初回会員登録」からお申し込みください。▶ <https://art-bridge.jp>

お問合せ先：art bridge事務局

〒540-0012 大阪市中央区谷町5丁目6-7 中川ビル3B(オフィス・エヌ内)

Email: info@art-bridge.jp TEL: 06-6777-8305



連携先の大阪府からのお知らせ ➡ 2025大阪・関西万博出展決定！

7月26日～27日 万博会場内のギャラリーWestにて、
「Art to Live」プロジェクト※の展覧会などを行います！ぜひご覧ください！

※大阪府「2025 大阪・関西万博に向けた障がいのあるアーティストによる現代アート発信事業」

